

会 議 録

| | | | | |
|-----------------------------------|---|------------------|----------|--------|
| 会議の名称 | 令和5年度第4回ふじみ野市社会教育委員会議 | | | |
| 開催日時 | 令和5年12月4日（月） 開会時刻 午前10時00分 閉会時刻 午後12時20分 | | | |
| 開催場所 | ふじみ野市役所 第2庁舎 3階 B302会議室 | | | |
| 出席した者の 氏名 (委員15人 中12人出席) | 役職名 | 氏名 | 役職名 | 氏名 |
| | 議長 | 斎藤 宏 | 委員 | 長谷川 節子 |
| | 副議長 | 中窪 由香理 | 委員 | 大久保 昭男 |
| | 委員 | 千葉 信 | 委員 | 岩 舘 豊 |
| | 委員 | 石川 健一 | 委員 | 小澤 真樹 |
| | 委員 | 今井 志子 | 上福岡西公民館長 | 内田 徳子 |
| | 委員 | 江 科 | 事務局(課長) | 永倉 秀雄 |
| | 委員 | 高橋 直人 | 事務局(副課長) | 小林 久美 |
| | 委員 | 越川 直樹 | 事務局(主事補) | 土屋 瑠奈 |
| 会議の議題 | (1) ふじみ野市立上福岡西公民館の今後のあり方について | | | |
| 会議の公開又は非公開の別 | 公開 | | | |
| 会議の非公開の理由 | | | | |
| 傍聴人の数 | 0人 | | | |
| 発言の内容 | 別紙「発言の要旨」のとおり | | | |
| 会議資料 | 別添のとおり | | | |
| 事務局 | 教育部 社会教育課 | | | |
| 議事の確定 | 確定年月日 | 令和5年12月 日 | | |
| | 記名押印 | 役職名 議長 斎藤 宏 ㊟ | | |

別紙

| 発言者 | 発言の要旨 |
|-------------|---|
| 事務局 (小林) | (開会) 欠席者 3 名で会議成立、傍聴者 0 名の報告 |
| 永倉課長 | (挨拶) |
| 斎藤議長 | 【議事 1 諮問「ふじみ野市立上福岡西公民館の今後のあり方について」】 (議事進行) |
| 永倉課長 | (説明・諮問理由及び概要) |
| 内田館長 | (説明・公民館事業の現状及び課題) |
| 永倉課長 | (説明・答申案及び概要) |
| 斎藤議長 | 今の事務局に説明について質問、意見等ありますか。 |
| 大久保委員 | <p>冒頭部分に「新文化施設の整備や社会教育事業の一つである地域学校協働活動の本格的な始動と公民館を取り巻く環境変化により、公民館の事業運営方針に新たな視点を加える時期が到来している」というふうに書いてある。社会教育法第 22 条における 6 つの項目が公民館を運営していく指針になっているが、「新たな視点」をどう捉えていいのかわからない。</p> <p>評価と確認のところに毎年度の審議会会議において建議内容を踏まえ、事業展開を多分野にわたり実施されていること、おおむね適切に執行されていると判断していると審議会は書いている。ただし、前回建議からの評価として、人材の育成相談支援に係る取り組みに課題が残ると認識し、公民館事業運営の根幹をなす人へのアプローチ、さらなる工夫と改善の余地があるものと考えているというふうに書いてある。つまり、この評価と課題における指摘事項というのは、まさに平成 15 年の 6 月に大幅に改定された公民館の設置及び運営に関する基準に書かれていること。これが実態だとすれば、公民館がすべきことの人づくり、地域づくり、地方自治の仕組みづくりなどが公民館運営審議会として十分にできていないというふうに捉えられている。毎年度審議会でおおむね適切に執行されていると評価しながら、こういった指摘をしている。</p> <p>整理と再構築のところに、これからの公民館事業が取り組むべき基本姿勢を挙げるといふふうにして 8 点ほど挙げて入っている。これらの取り組みというのは、国の公民館の設置管理運営に関する基準と、社会教育委員会議で平成 31 年 3 月に答申を出している内容に含まれている。しかし、4 年もたち、その間にこの答申の中身というのはどう具現化されてきたのか課題が残る。</p> <p>結びの部分に期待する公民館事業運営の姿とあるが、事業の取り組みというの</p> |

は、行政の一方的ななげかけや呼びかけに参加者が応じるだけのものではなく、関わる人々の力の結集で効果を発揮するものであることを改めて認識しなければならないと書いてある。当たり前のことである。社会教育施設である公民館の役割と機能の基本中の基本でありながら、こういう指摘をされている。これはやはり社会教育委員として今までやってきたことは何だったのかということが、この建議があがってきたことによって非常に課題になっていると私は捉えている。

内田館長

新たな視点の言葉だが、この建議に寄せていただいているコメントはもっともなお話になっている。その中で新たなという言葉が強過ぎる表現なのかもしれないが、5年前に建議をいただいた後の上福岡公民館、大井中央公民館、それぞれ新しい文化施設となり、公民館にそれまで縁のなかった多くの利用者の方々にも足をお運びいただいているような現状があらわれてきている。また、5年前から地域学校協働活動についての本格的な始動がされてきているということについて、公民館が負うべきその課題は当時からも今も変わってはいないが、そのときにはそこまで思い至らなかったことを、新たな視点として、立ち戻って公民館の課題を今一度、建議としてご意見をいただいたところが、今回の根本と思っている。

人づくりに十分な働きができていなかったが、冒頭では適正に執行されているという評価の言葉をいただいている理由だが、毎年度、事業の趣旨を踏まえてこういった事業計画を行うということ、年度の最後に、次年度の計画という形で委員の皆様へ発表している。その計画に基づく事業の実施状況を報告し、委員の皆様からご意見や、ご指摘をいただいたりしている。そういった流れの中で公民館がやろうと計画していた事業について、適正に執行されているというコメントをいただけた。これは委員の優しい心がこういった言葉として評価、表現いただいたのかとは思いますが、ただ公民館が行うべき課題に照らし合わせると、まだまだであるという公民館運営審議会からのご指摘であると捉えている。今やっている事業の何をもう一度見直さなければならないのかということがこの建議に基づいて取り組んでいくことであるというふうに思っている。

結びにのところに当たり前のことが書いてあるのではないかとということだが、まさにこの建議そのものがどれもこれも基本的なことを書いていただいている。今一度基本的なことを書いていただいている中で、公民館の事業をどのように考えてやっていくんだという重りを今一度据えていただいたというようなものなのではというふうに思っている。なので、基本が今さらだということについては、その今さらを改めて考えることで、今我々が行っている公民館事業にもっと彩りを加える展開がなされるのではないかと期待をいただくための建議を頂戴していると考えているところである。

大久保委員からのご指摘については、本当にそのとおりである。本来であればこれに+αの言葉を建議としていただいでいくような動きをしていかなければならなかったところは、反省の一言しかない。だからといって今までできなかったことについてばかり、できなかったというふうに思うのではなく、前を向いて

| | |
|--------------|---|
| <p>大久保委員</p> | <p>実行していきたいというふうに思っている。</p> <p>結局、社会教育委員会議でもこの課題を捉えて答申をつくってきているが、十分でなかったような建議の内容になっている。だとすれば、西公民館の扱いをこれから公民館から文化施設にする過程の中で、果たして今まで以上のことが期待できるのかが大きな課題になってくる。今の説明ではこれまで以上のことができるという捉え方をされている。本当に今まで以上のことが期待できるのか、懸念材料である。今までできていないから、建議が上がっているというふうに考える。</p> |
| <p>永倉課長</p> | <p>前回令和元年の9月で答申をいただいた内容から5年間経過をした中で、建議内容を踏まえると、進捗が見えないという指摘はその通りである。これは事業展開をしていく中で、年間計画の事業をこなす形となってしまった経緯があるのではないかとということで、反省をしなければいけない件だと思っている。これを再度、新しく転換ができる、その中でこういった施策が展開していけるのか、こういったことを市民に還元をし、実感していただけるのか。そういったところを今後はより強くしていくことが望ましい。これに関しては、第3期の教育振興基本計画の中には明確に位置づけをし、その中で毎年検証を進めていく、これが我々のできる最大限の努力であり、やらなければいけないことと思っている。</p> <p>こういったところを明文化していったら、この5年間、また今後の5年間を通じ、一つの課題として捉えて、今後も検証しながら検証結果を報告させていただきたいというふうには考えている。</p> |
| <p>斎藤議長</p> | <p>前回配布された建議の④のタイトルを見ると、このままでは誰も参加できていないから、これをどんどん増やしていこうよというような提案がある。しかし西公民館の活動を見ると、既にステラ・ウェストでもやって、ステラ・イーストでもやっている。小学生用、高齢者用もあり、いろいろなものが展開されてきている。ただ、指摘としてあるが、成人用は非常に少ないところがある。建議の②の地域活性化の解決に向けて市民が地域を巻き込みながら、より身近に自分ごとの意識意欲の醸成、効果的な事業を仕掛けることが重要です、と書かれていると、今まで仕掛けてないということになる。これからはもっと社会教育において、地域の課題解決や、地域発展についてどうするかというコースをつくることも、この建議の内容から意識しないといけないと私は思っている。</p> |
| <p>小澤委員</p> | <p>前回の会議からもう一度資料を読んでみても、事前に送付された答申案を読んでみても結局わからず、館長に電話させていただいて、分からないことを質問させていただいた。結果どういう風に持っていくのがいいのか考え、難しいなと思った。西公民館も上福岡公民館や大井中央公民館と同じように文化施設とするのか、西公民館も古くて備品もというのは最終的な進路にはならないなと思う。前回の会議のなかでもわからないながらという意見もあったが、この答申案をみると結論ありきの話なのではと思う。</p> |

ただ、西公民館を文化施設にするのであれば、前回の図書館を利用したときの話にあったように、前までは資料探しを親切に寄り添って探してくださっていたのが、ないです、以上ですといったように突き放されたように感じたがあったが、その話は1人だけの話ではなく、他にも多く感じた方がいると思う。そういった意見が反映されずこのままいってしまうのでは、と感じていた。建議の内容もとても理想的な内容で実現すればとても良くなると思うが、結局そうになっていない現状である。市としてこうしたいという話は分かるが、結局そのとおりになるのか。一般市民としてその通りになるのかというところが見えてこない。とてもすばらしいことが書いてあると思うが、本当にそれで進んでいけるのかという気持ちがすごくあり、結局答申ということである、本当にいいのかとお戻ししたい気持ちでいっぱい。駆け足で答申を出さないといけない日数の短さも、わからなかったという意見があったということは、もう少し説明があってもよかったのではと思う。

永倉課長

短い期間でお願いするというのは本当に我々としても大変申しわけなく思っている。

そして、現状として西公民館は老朽化している。それによって建てかえではなく、大規模改修工事を今後進めていく。今文化施設になっている施設の利用状況等を考えると、そういった利用をしていった方が、より多くの方にも利用できるのではないかと。両文化施設の方で公民館活動もしている。これまでは公民館だったので、公民館を利用する方々が多く訪れていた。しかし、今は文化施設になり、図書館もあり、公民館以外の利用ができる状態になった。一般の利用者が公民館活動をしている部屋や活動の内容が見れると、もっと身近に感じていただける。多くの方に公民館活動を知っていただける。また自分も参加してみたいという意識を持っていただける場になっていると認識しているところである。

これまでの答申の中でいただいているご意見をそのとおりにできていないから、今後5年間も含めてできるのかというのは確かにある。しかし、そういったところを踏まえて今回は取り組むという姿勢を全面的に出していく。そういったことで皆様方にはお伝えをしていきたいと考えている。

今後、教育委員会から首長部局の方に一旦このボールを投げ、西公民館を文化施設にするかしないかという議論をする。

市長部局の方で、文化施設に向けての議論が終わった段階で、もう一度教育委員会に議論結果を報告します。

越川委員

私としては、情報発信が一番重要だと思っている。前回もお話をさせていただいたと思うが、そもそも一般市民は公民館事業というものをあまり理解していないと思う。一般市民は公民館とは何かする箱だと思っている。事業の目的というのはあんまり考えていない。カルチャーセンター化という話があったけれども、催し物やとりにあえず箱を動かしましょうみたいな意味合いでやっている人が多い。私もそう思っていた。

事業の内容の発信は、市報や公民館だよりなどでやっていると思うが、こういう目的でやっているという情報はどこにも載っていないと思う。市のホームページの内容については、いろいろ他に思うところがあるが、どこをどう見れば重要な情報が得られるかがわかりづらい。市の方から訴えたい情報が見えてこない。公民館のページを見ても、公民館の使い方や、公民館だよりが並んでいるだけで、公民館事業の目的はこういう形でやっています、というページはどこにもない。事業をやるので参加者募集というのを掲載していると思うが、そもそも公民館の事業とはどういうものなのかというのをぱっと一覧で見られ、この問題に対してこういう事業をやっていますみたいなのが、やはり見えている必要があると思う。

内田館長

情報発信をどのようにしたらいいか、どうしたら効果的に皆さんに届くかというところを悩んでいる。何のためにこの事業を行っているかというのを強く伝えると、重たくなってしまおうと思っていた。自分たちが課題としているものに、何か役立ちそうな事業に手を伸ばして参加してくださるところが、まず第1に届かなければ意味がないなと思っていたため、できるだけ端的にこういうことのために事業をやりますと書いてはいたが、確かに事業をどういう意味でやっているというのをもっとお伝えしてもいいのかなとお言葉を聞いて思った。事業の目的を市民の方にお伝えすることも効果の一つになるんだなということも思った。

こちらの資料には書いていないが、紙媒体の市報や、公民館だより、ホームページは作り込みがおぼつかなく、事業の紹介ページもあるが、そこまでたどり着かない状態になっているのだと思う。素早く改善できる場所だと思うので、早急に手を打たなければと思う。

それ以外にも、例えばFメールを受けられる方が多くて、Fメールで情報発信などもしているが、公民館運営審議会の委員さんから頂戴した言葉の中に、広い方々を対象に情報発信しても案外人って受け取らないという言葉が頂戴している。誰かに向けての情報だと、他人事のような認識になってしまう。それだったらアナログなやり方だが、市の掲示板に貼ってあるものの方がそこを通る人が目にし、こんなことをやっているのかと知らなかった情報を得るという人は、意外に多いという風に委員さんからお言葉をいただいた。掲示板はどちらかというアナログで、あまり情報発信力はないような媒体なのかとイメージしがちだった。市民の方である委員さんからすると、そうではないというような声を頂戴している。

あとは、入学準備説明会にご参加になる親御さんに向けた入学準備のためのセミナーを毎年、来年小学校1年生に上がるお子さんを持つ保護者にこういう知識があると学校で面白い生活が送れて、子供たちのサポートになれるということをやっているが、応募率があまり芳しくないというところで、今年度は市内の全小学校の就学時検診に出向いてチラシを配るという効果的であろう周知を行った。ところが、ふたを開けてみると、対象となる全候補者の方に配ったはずが、応募率が例年と比べて変わらなかった。ということは、その情報の発信とあわせて中

身を練らないと、対象の方々が求めているものやっていたのかもしれないと思いたったところである。そういうところの情報発信とあわせて、事業の展開を見直していかないと日々実感している。

今お話しいただいた情報発信の重要性、お言葉をいただいてそうだなということに改めて思いたった気がした。我々としても発信をすればいいと思っていないが、その発信の中にどのような要素を盛り込んで発信すべきものなのか、ということに改めて議論したいと思う。

今井委員

一市民として初めてウェストの図書館に行ってみた。確かにすごくきれいで、あんまり人がいなくても構わないと思った。しかし、上福岡図書館が休館し、向こうまで行くとなると車になる。利用したくても、遠いとあまり行けなくなる。公民館と建物だけじゃなくて、いろんな場所でやったほうがいいと思うが、もっと自由に行きたい。例えば老人の場合だと車の免許を返上してしまったら、バスが人気。コミュニティーバスはいいなと思ったが、時間があんまりないし、時間を合わせて行かなくてはいけなくなる。すごい本数が走っていて、すぐ乗れて行けるのだったら、いろんな場所にいける。誰でもいつでもどこでもということを考えて、やっぱり小さいお子さんをつれていたら車に乗るにも大変でないか。老人も足がないと家から出られないし、そういった人たちが使えるようにどうしたらいいかわからないけどと考えてもらいたいと思う。

その情報発信もだが、私はホームページとかもそんなに見ない。どうしても必要な時はみるが、市報くらいしか見るものがない。今の人はSNSとかよく見る方も多いかもかもしれないが、一般老人としてはそんなに見ない。掲示板の話があったが、私もお散歩していて、掲示板があるとこんなのあるんだなと思った。やっぱりそういう紙媒体もまだ必要じゃないかと思った。何をどこでやってるか分からないと参加できないし、どんなものか行ってみようかなと思っても結構市でやっているものは敷居が高いというか、ちょっと覗いてみようかなと思うけれど、ちょっと行くの怖いなと思ったりする。

例えば仕事をしてる時は市報で色々なものがあるなと思っても、いけない。そうすると若い人は土日とかお休みの日しか参加できない。こういうことを考えていけたらいいのかなと思う。

小学生向けや老人向けとかあるが、私達がやっている事業みたいに小学生に受けてもらっているものをちょっと見てもらいたいなとかある。老人とは言われるが、普通の大人の人がやっているところをちょっと見に行ってみたいけど、行きにくい。幼児向けとか小学生対象と書かれるとのぞきに行くのはどうなのかと思ったりするので、そういうのがあればすごくいいなと思う。

例えば答申を出して、実際にこれを実行するのはだれなのか。そこまで考えてやっていただけたら、これは立派な答申になると思う。

永倉課長

教育委員会から社会教育委員会に審議をいただきたいということで、投げかけをさせていただいて、それに対し答えをいただき、答申を踏まえて各計画に反

映していく。まずはこの答申案が基礎となっていく。この答申案を基にして、今後の新しい計画または整備計画も含めて反映をしていくというふうに考えていただければと思っている。

越川委員

先ほど今のホームページでは伝わりにくいので変えた方が良く例を出したが、これをやれば全て情報発信が完結するというのはあり得ないと思った方がいいと思う。この人はこういう媒体しか見ないが、こっちの人はこの媒体を見ているのは当然の話で、掲示板の話もあったが、私は掲示板を見たことはほとんどない。それこそ紙で貼ったところでそんなにリーチしないと思う方で、あまりITを使わない高齢者の方だったら紙の方がいいとか、市報はよく読み込んでいるけれども、ホームページは見たことない、という人はいっぱいいる。公民館便りを公民館に積んであるだけ、あとは公共施設にちょこちょこ置いてあるぐらいで一般のところに配っているわけではなければ、なおさら、市報よりもリーチする範囲は狭い。先ほど、直接催しに行ってきた説明をしたけれども、あまり効果がなかったとあったが、それも別に全然効果ないというわけではないと思う。

情報発信というのは結局何か興味のある人に対してやるというのはある程度やりやすいが、興味がない人、まったくそういった関心が今までない人に対して何かリーチする情報するというのはすごい難しいことで、一般企業でも結局何か物売るためには、それを知らなかった人、その興味なかった人にいろいろな手段をとって情報発信して、ようやく少数の購買者を釣り上げるみたいなことを日々やっている。情報発信は非常に難しいというのは理解している話だが、それに比べて市の情報発信は非常に劣っていると思うため、もうちょっとやれることがいくらかあるんじゃないかと思う。全部紙はやめてとか、そういうことを言っているわけではなくて、電子も紙もやる、紙を積んで置くだけではダメだし、市報も読む人もいれば読まない人もいる。市報の一部にこう書いてあっても公民館だけでなく他の情報もあるわけだから埋もれてしまう。隅から隅まで読む人は分るかもしれないが、最初のトピックをだけを見て、それ以降の催し物とか細かいところとか見ない人からすると、何をやってるか全然分からない。できるだけ多くの人にリーチするようにしましょうというのが遠回しにできることだと思う。今まで紙でリーチされたことは少なくとももうちょっとプラスになるし、それぞれの手段でできる時はまた違うやり方、紙配るだけでなくある程度説明するだとか、事業のチラシにこれはこういったことのためにやっていますよってチラシに入れるとか、いろいろやり方があると思う。それをもうちょっと考えたほうがいいのではないかと思う。

図書館の交通手段の話だが、個人的な印象だけれども、ふじみ野市は埼玉県でもすごい小さい。埼玉県は都道府県第1位の市の数がある。ちょっとボールを投げれば、次の市に入っちゃうみたいなどころなので、大井に行くのは相当近いと思う。横浜の山の方に住んでいたのも、どこに行くにしてもバスで20分30分行かないと、商業施設がないところだった。そういうところからすれば、全然恵まれていると思う。なので、今いる範囲からちょっと歩いて5分で行けないでは

| | |
|-------|---|
| | <p>なくて、今むしろどれだけ利益があって、さらに良くするためにはどうするかという感じでいないといけない。これができない、不満だと言っていると、話が進まない。バスも時間が少ないのだったら、バスの効率はどうなのかというのは必要だし、昔に比べたらからコミュニティーバスも多少は良くなったと僕は思っている。都会から離れたところだとバス1時間に1本あればいいところで、それに合わせて生活しなきゃいけないというのは普通だった。その辺は広い心で考えた方がいいのではないかと思う。</p> |
| 今井委員 | <p>ふじみ野市は合併したので、大井と上福岡が交通の便が離れている。いろんな公共施設や公園とかいい所もいっぱいある。ただうまく利用できるように繋がるようになっていけばいいなと思う。昔はバスも1時間に1本だったが、実際問題杖をつけて歩いている人たちがここから大井まで毎回歩いて通い続けるのは無理だと思う。そういった意味で言った。</p> |
| 越川委員 | <p>その特定のところを言ってしまうと、そういう話になってしまうので、それは公民館の話でなく、別でやらなきゃいけない。高齢者用のタクシーなど何か別のシステムで考えてもらって、今回の話とはちょっと切り離れたほうがいいと思う。</p> |
| 長谷川委員 | <p>先ほどの課長の話の中で、文化施設にするかどうかというところもまだ決定ではないという話を聞き、まだ意見を言えるんだなというふうに思った。確かにステラ・ウェスト、イーストが立派にできて良かったなと思う。</p> <p>そもそも社会教育は、学校教育課程の中で行われてる教育以外の青少年や成人に対して行われる組織的な教育活動、そこには体育とかレクリエーションも含む、そういうことを実行するために公民館があって、本来はすごく広くて何でもできる施設だったはずが、ここへ来て、それでもニーズに合わないところが出てきたから、もっと大きなみんなができる場所にしましょうという風になり、こういう運びになっているのだなと思い、ぜひ利用したいと思う。</p> <p>ただ、西公民館が同じような文化施設になって本当に普及するかとか、それでいいのかなと思う。例えば公民館事業の中でふくっこクラブとかわんぱく教室、青少年教育事業などは応募者が70人のところ30人しか抽選で入れないとか、わんぱく教室も50人応募しているところの30人しか参加できない。私としてはもう少し教育に力を入れて欲しい。先ほど文化・スポーツ振興課の方にも社会教育として今まで大切なところは要望していきたいという話があったが、要望ではなく、教育に力を入れた直轄の施設で、教育委員会が主体に取り組める施設として残して欲しいと思う。</p> <p>前回もお話ししたが、ステラ・ウェスト、イーストの方で広く考え、広く行われるとなると多分薄れるだろうなとか、あと社会教育主事の方は今、社会教育課の中に一人ということをやったが、市役所全体ではもっといらっしやって、そういうものを結集し、教育委員会にはもっと教育に力を入れてほしいなと思</p> |

| | |
|-------------|---|
| | <p>携がとれていない、と自ら出してしまうこと自体が課題だと思う。今回の建議の定義も含めて今私たちが向かおうとしている社会教育のあり方そのものが大きく変わってきているのかなと私は考える。恐らく政策的な分野でこれから進んでいくわけであって、我々是一个の組織で、そこで意見を出すことはできるけれども、最終的には行政や議会が決めること。だが、やはり答申を出す以上は、一人一人が責任を持って出さなきゃいけないと思う。ふじみ野市の社会教育はこうなってしまった、十分な審議がされずにこうなってしまったとなるのが申しわけない。ここからは答申の内容について、何を盛り込んだら今やろうとしていることが具現化できるのか、答申の内容自体の話をしたほうがいいと思う。</p> |
| <p>内田館長</p> | <p>岩館委員の懸念の中で、説明させていただきたいのは、公民館と言うと、公民「館」にイメージがつけられてしまうところがあるかと思うが、大事なのは公民館機能である。要旨のとおり、我々がやっていかなければならないことは、行政がこれからもやっていかなければならない。例えば、公民館が文化施設になったときに、そちらに公民館機能をすべて移管するのではなく、そういったこともでき得る全てを行える施設としてリニューアルをしていく。先ほどから議論になっている事業自体はこれからも我々が行っていく。</p> <p>今まで公民館はいろいろ連携をしてやっている事業がたくさんあるが、よりしっかり手を組み合ってやっていこうというところが建議でうたわれている部分である。例えば施設一つをとっても、その館単独の事業、つまり文化施設が自分たちの収益を上げるためのカルチャー的な事業というのもそこでやり、あるいは私どもが社会教育の単独事業として今までやっていたものもそこでやる。</p> <p>それとあわせ、文化施設にいる社会教育士と、教育委員会の社会教育主事の連携を核にし、その文化施設との連携だけでなく、民間施設、民間の団体も加わって展開する。そういう多様な事業がオーロラ的に、グラデーショナルに展開できる場所でありたいと考えている。公民館でも、そういったことをやっていたが、社会教育施設はどうしても制約がある中で、もう一步ができないというところもある。今議論いただいている内容が決して文化施設に全部替えてしまうということではないというところだけ理解いただきたい。今までのこの建議に言われているような課題を文化施設にして全部こなせるのかというのは、その課題をお願いしたいということではない。</p> |
| <p>岩館委員</p> | <p>西公民館の看板のあり方として、そういう場所にしてほしいなというのがあって、その時にステラ・イースト、ウェストにそれはそういった事業を展開していくのか。基本計画の概要版には公民館と芸術振興が目的と役割が異なっているというふうに書かれていたので、文化振興の施設に公民館機能もミックスしてやっていく感じがあるところに、今までできていなかったところが、しっかりできていきますよというのはどういった整合性があるのか。</p> |
| <p>内田館長</p> | <p>建議の内容をこなしていくのは施設にいる職員だけということではなく、そう</p> |

| | |
|-------|---|
| 永倉課長 | <p>いったことに使われていくような施設として成長していかなければならないというのが、この計画の道筋である。</p> <p>これまでは西公民館という館の中で、公民館事業を多くこなしてきた。それを作るだけではなくて、当然そこでも行っていく。しかし、他の公共施設、学校、または民間の施設で公民館事業をもっと展開をしていって、利用者にもっと身近に感じていただける、そういった事業展開をしていきたいという中の一つの箱物が西公民館を今後どういう位置づけにしていきたいかということ。</p> |
| 越川委員 | <p>文化施設基本構想・基本計画の概要版は、文化芸術振興に使いづらから文化施設にしましようねというもののために書いているわけで、これを逆に解釈したら、話はおかしくなる。今の公民館をどうするかという話には不釣り合いな話で、公民館の機能というのは、単にハコモノをどう使うかの機能であり、文化施設といたら使用制限がないから広く使えるという話である。それをどう使うかはソフトの話しであって、公民館事業としてどこを使っても別にいいという話である。事業の内容に施設の話を持ってきたらあべこべになっちゃうので、それはちよっと忘れた方がいい。</p> <p>公民館の拠点としての話は、これからの公民館事業の拠点としての役割、単に公民館の事務局がここにありますよとか、ここに行けば公民館の話が常時できる、そういった拠点があるという話で、基本的には誰でも使える自由度の高い施設にしていくというのが今後の方向なのかなと理解している。</p> |
| 石川委員 | <p>建議をみると公民館運営審議会そのものが行政に対して言っているだけの話。自分たちがこういう活動していて、ここがうまくいかない。あるいは我々公民館でこんな活動をした、でも何かダメだ、ここを何とか行政の運営の全体的なところでレベルアップをしてほしいとか、なんとかしてほしいとか、そういうのが建議の根底にあるのかなと思う。この件そのものと自分たちが云々というのはどこにもないが相当努力しているはず。それが建議に盛り込まれていないのは残念だなというのと、今回の諮問については、今後の社会教育のあり方の定義を前提として質問している話なので、現状を捉えてふじみ野市としてこういうところを強化していきましょうということではなくて話す必要があるのかなと思ったところ。</p> |
| 大久保委員 | <p>政策的にそういう方向に恐らく進んでいくというのは致し方ない。その中で公民館の機能をどれだけ担保できるか。公民館という名前がなくなったとしても、その中にきちっと公民館的な機能が担保されるのだということが、例えば条例の中に含まれる、規則の中に含まれるのであれば安心できる。</p> <p>指定管理になっていくと何が課題かということ、全国的にいろいろな報告も出ている。住民との接点が希薄になるというのが一つ指摘されている事項である。公民館であれば、館長がいたり、副館長がいたりして、常に住民の要望を聞くが、</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>指定管理業者では5年間の契約の後に業者が変わってしまう場合もある。そうになると地域住民とのかかわりが指定管理者の担当者ができるかという課題も指摘事項にある。そういうことを考え、西公民館の今後を言っている。</p> <p>だから私は、ふじみ野市では社会教育よりも生涯学習体系に移行していくのかなという捉え方ができる。自由に学べる、やりたいことを学べる、社会教育という縛りはあるが、社会教育の狙いははっきりある。行政と市民が一体となって街を作っていくときに、行政の意向をどのように市民が受けとめてくれるかが非常に重要になる。この辺のところ非常に希薄になるのではないか。問題はそういうところも含め、答申に限りなく盛り込んでいかないとどうなのかと感じている。</p> |
| 永倉課長 | <p>今、西文化施設、東文化施設は民間への委託である指定管理という形で運営されている。西公民館の位置は、東西のちょうど真ん中にある。これは仮定の話であるが、指定管理に移行したとしても、社会教育主事の資格を持った職員が、民間の社会教育士と連携をとりながら、社会教育事業、公民館事業を文化施設でもできる組織的なものを、市長部局に提案もさせていただきたいと思っている。それにより、市民との距離感をできるだけ遠ざけない、近づけるようにしていきたいとは思っている。西公民館の今後のあり方の中で指定管理に全てお任せするということでは当然なく、事務局としても社会教育主事を持った職員が入り込んで一緒になって事業展開を図っていく、こういったところが一つ方策として可能かなと思っている。</p> |
| 大久保委員 | <p>今の課長の言葉を聞いて少し安心したが、指定管理者に任せる部分は管理面だったらいと思う。運営となるとどの業者が受託したかによって変わってしまう。本当に力を持っている業者ならいいが、そうとも限らない。だから運営面において、やはり行政はその位置づけを担保でき、これを実現してもらわないといけない。</p> <p>イーストでもウェストでも公民館事業、つまりサークル活動はできている。でも、サークル活動をしていく上での相談の窓口というのは、なかなか今のところ厳しいと思う。そういったところも今の西公民館の職員が全部担っていくというふうに考えてよいのか。</p> |
| 内田館長 | <p>そうです。</p> |
| 大久保委員 | <p>今ふじみ野市は埼玉県下では分館が多い。大体、社会教育活動で6割ぐらいを使っているが、中身はサークル会場で、そこに職員は誰もいない。分館の責任者のような方を近所にお願ひし、その方からカギを借りて活動している。そうなると、公民館の分館としての機能が十分果たされるのかという疑問を持っている。例えば集会所であるとか、そういう扱いで管轄してもらった方がエネルギーをこの公民館に向けられるんじゃないかなとも思う。</p> |

| | |
|-------|--|
| 内田館長 | <p>分館は、今年度から地域のコミュニティーのための施設として会館という形になり、行政でいうところの協働推進の担当課が管轄している。使い勝手としては、サークル活動もそうだが、やはり地域の町会自治会町内会、支部社協、老人会、そういった地域のための活動に資する機能が一番多いところだった。そういった機能を全く失わずに、管理をしているところが変わっただけという形。管轄は現在市長部局となっている。</p> |
| 中窪委員 | <p>そもそも協働推進課と社会教育課が分かれている意味がわからない。あと文化・スポーツ振興課。それぞれが連携しなくては、そこに書いてあることを全部遂行するのが難しいと思うが何で分かれているのか。</p> |
| 永倉課長 | <p>もともとは教育委員会の方で生涯学習部門とスポーツ部門を持っていた。法改正によって市長部局の方でも所管できることになった。そのときに生涯学習の部分が協働推進課に移り、市民との協働のまちづくりという理念のもとに、協働推進課が所管している。スポーツ分野も、教育部局から市長部局の文化・スポーツ振興課に分かれています。</p> <p>3つが協働すればという話は、今その協議をしている最中である。新しく組織をつくって市民からもわかりやすいような形で拠点づくりをしていく、それが協働推進課、文化・スポーツの文化部門、社会教育をあわせて一体化できないかという協議を進めている最中である。そのときに、この今、西公民館の問題が出ているが、そこに合わせて組織形態も編成をしていこうという動きにはなってきている。</p> |
| 大久保委員 | <p>首長部局と教育委員会とで二本立てでやっているところというのは、埼玉県下の3つぐらいしかない。生涯学習が首長部局に入ったのは、法改正でできるようになったときに動かしたところも結構多い。ただ、意外と元に戻すところもある。これは市民から分かりづらかったからでもある。</p> |
| 中窪委員 | <p>先ほどの話の中で就学時検診に説明にいったがあまり効果がなく、人が集まらなかったという話があったが、学校入学後の生活を送るために必要な事というのは、もっと前の世代、2歳や3歳をお持ちのお母さんを対象にした方が集まると思う。</p> |
| 内田館長 | <p>そういった事業も現在行っている。現在色んな世代を対象とした事業はそれぞれやっており、できるだけいろんな事業をみなさんに参加いただけるようにしたい。それが公民館機能をより活性化していくことにつながると思うので、そうするとやっぱり足りないところが出てくるのでどうするか。</p> <p>入学を控えている子供を持っている親御さんに対してのことも、我々も下支えしていきたい。ところが、思ったような成果が現れなかった。その対象の方々に</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>対してアプローチしたにもかかわらずというところが、その事業の展開の仕方に関し何か問題が、そもそものプログラム自体にちょっとミスがあったのかもしれないという思いはある。</p> |
| 小澤委員 | <p>三角小は学校応援団で新入学児童を持つ保護者のフォローをしているらしい。参加者は誰が講師をするのかにもよるかもしれない。</p> |
| 斎藤議長 | <p>これから大事なのは運営面。今日の議論を踏まえて事務局の方で追加・修正ができたなら、議長・副議長に一任していただいてよいか。</p> <p>(了承)</p> |
| 斎藤議長 | <p>12月14日に教育長にお渡しできるように進める。</p> |
| 岩館委員 | <p>新施設に行政も入るという案が出された。これはとてもよいと思うので、答申の中に入れて欲しい。本来公民館が発揮する機能は何なのか、地域活動を支える学びが出来ることだと思う。</p> |
| 斎藤議長 | <p>【報告事項1 市指定文化財「元三福学校」の指定解除について】 (議事進行)</p> |
| 永倉課長 | <p>(説明 元三福学校文化財指定解除の説明)</p> |
| 越川委員 | <p>処分を検討すると書いてあるが捨てるのか。</p> |
| 永倉課長 | <p>全てではない。一部は活用し、一部は処分となる。</p> |
| 越川委員 | <p>目立つ梁をちょっと残してこういったものがあつたと説明しても響かない。そもそも解体したときになぜ解除しなかったのか。その場所に資料館をつくりたいから、解体したと思うが、その時点で移築するのだったらやるべきだった。今ちゃんと残っていればそれなりに見栄えのする施設だったと思うが、解体した部品で残存する部分が余りにも少ないというのがあると、すこしずつ処分していて、ここにあるというのがバレないようにこっそり隠していたみたいない感じに見えなくもない。</p> |
| 永倉課長 | <p>全くそういうことではない。処分してきたわけではなく、解体した当時からそれしか残っていないというのが現状になっている。</p> |
| 越川委員 | <p>置いてただけで、管理もしていなかったということか。どういった経緯でこれらがこうなっているかよくわかっていない状態。今さらどうしようもないから</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>捨てようという感じが方針かなとは思いますが、ちょっともったいなかったなと思う。3Dでやるみたいなのを書いてあるが、復元で雰囲気わかるデータが残っているかなど、何とかいいようにしてもらいたいと思う。</p> |
| 永倉課長 | <p>上福岡歴史民俗資料館で模型の展示はしている。その当時の図面もあるので、それを元にして復元は可能かと思う。完全復元すると茅葺きの屋根のため、かなり制約が大きい。どうしても市街地に置くのは難しい。</p> |
| 越川委員 | <p>その辺は、今風に仕上げを工夫するとかできるのではないか。</p> |
| 永倉課長 | <p>いずれそういう方向もあるのかなと思うが、今あるものを一旦指定解除しないといけない。</p> |
| 越川委員 | <p>結局何か実感を持って体験できるというのがいいと思う。近隣で言うと、富士見市にある南畑の資料館でも当時の雰囲気がわかるものがあるが、そういうのがあっても良かったなと思った。事情があってしょうがないというのはわかるので、いいようにしていただきたいと思う。</p> |
| 斎藤議長 | <p>【報告事項2 埼玉県市町村社会教育委員連絡協議会について】 (議事進行)</p> |
| 永倉課長 | <p>(県社連脱退の説明)</p> |
| 石川委員 | <p>入間地区社会教育協議会の社会教育委員部会で説明もされたが、意見は出しにくいのと発言もあった。入間地区に情報が入ってこなくなるのではないかとか、入間地区の活動が停滞するのではという懸念もだされた。行政の示す方向に従うという意見もあった。</p> |
| 小澤委員 | <p>情報を得るところでは負担金を払ってでも加入していた方が良くはないか。全国や関東大会に参加した委員が研修内容を下ろしてくれれば良いと思う。</p> |
| 永倉課長 | <p>本日は時間が来てしまったので、次回の会議でご意見を伺いたいと思う。</p> |
| 斎藤議長 | <p>その他として、事務局から何かありますか。</p> |
| 小林副課長 | <p>(生涯学習フォーラムの案内) (次回会議の案内)</p> |
| 中窪委員 | <p>(閉会)</p> |

